JISPA 入会案内

輸入車修理のベストパートナー

一般社団法人日本輸入車整備推進協会は、日本車を整備している「街の整備工場」で、
併せて輸入車を整備する独立系整備工場（Independent auto repair shop）の全国ネットワークです。
外から見れば普通の整備工場ですが、中に入ればリフトの上に宝石のように美しい名車が載っている。

オーナーの大切にしている愛車を、オーナーの思いに寄り添い大切に整備していきたい。
そして、電子診断のデータに基づき、車輌の環境性能・安全性能・乗り心地を
自動車メーカーの工場出荷時(新車)の状態に戻す新時代の診断整備を目指します。

一般社団法人 日本輸入車整備推進協会 事務局

輸入車整備市場におけるJISPAの位置付け

JISPAのお客様像

輸入車ディーラーで新車を購入し、メーカー保証期間プラスαはディーラーにて整備

お気に入りの愛車に長期に乗り続ける事を希望

信頼できる独立系整備工場としてJISPAの工場に整備を依頼。

JISPAの目指す輸入車整備

ＪＩＳＰＡは独立系自動車整備工場（Independent auto repair shop）の団体です。
Independentとは自動車メーカーとその傘下のディーラー網に属していない独立経営の整備工場です。
我々は「輸入車の所有者（オーナー）あるいは使用者（ユーザー）より、愛車の整備を依頼された立場」ですから、依頼者との信頼関係を大切にし、その要望に応えようと努力します。
現実には、あまりに年式の古いクルマでは部品の入手が難しい（補修部品の製造中止、在庫切れ等）問題があります。
一方で新しい車両については、技術情報の入手が困難なだけではなく「整備事業者が触れない領域」が増えています。
これは国産車においても同様です。
このような困難はありますが、我々は決して諦めることなく、ベストを尽くします。
さらに「日本の道路の法定速度」「排気ガスの基準」「騒音規制」など様々な法的な制限があります。我々は国土交通省の認証を受けた自動車整備工場ですから、法的な規制をしっかり守る中で、お客様の要望に対応しております。

輸入乗用車の車齢別の保有構造は以下の通りです。

車 齢	保有台数	シェア
～5年	157万台	41%
6～10年	97万台	25%
10年以上	130万台	34%

輸入車のユーザーは愛車に永く乗り続けたいと思う人が多く、車齢が10年を超えた車輛が全体の34%あります。
ワランティ期間（メーカー保証期間）を超えた車両の整備はディーラーから徐々に信頼できる独立系整備工場に移行します。車齢6年から10年を越える車両の多くが独立系整備工場に入庫してきます。
おそらく、現状では保有台数の半分弱が独立系整備工場に入庫していると推測されます。

※ＪＩＳＰＡ会員はコーディングを含め、多くの面で輸入車ディーラーにお世話になっており、今後とも友好的な関係を続けて行きたいと考えています。

JISPAの会員工場

現在、ＪＩＳＰＡの会員工場は以下の２つのタイプがあります。

（１）輸入車整備に実績のある工場

- 長く輸入車の整備に取り組み、多くのお得意先（固定ユーザー）があり、故障整備、不具合整備のみならず車検整備、定期点検整備、日常のメンテナンスに至るまで任されている。
- 「輸入車の整備が可能」という噂を聞きつけて遠方の輸入車ユーザーより整備依頼が入る。
- ＪＩＳＰＡテクニカル・アドバイザーの在籍工場。
- 工場研修（OJT）実施工場（会員工場のメカニックを引き受けて実技教育）。
- 工場所在地域において輸入車整備が可能な工場として信頼を得ており安定して輸入車が入庫する。

（２）輸入車整備を経営の１つの柱として育成中の工場

- 固定客に輸入車ユーザーが多く、輸入車整備を依頼される。
- ＪＩＳＰＡに加盟して輸入車整備を内製化したい。
- ＪＩＳＰＡ技術セミナーにメカニックを派遣し輸入車整備技術を習得。
- ＪＩＳＰＡテクニカル・アドバイザーの援助を得ながら対応。
- ＪＩＳＰＡ工場運営アドバイザーよりフロント、輸入車部品調達、顧客勧誘方法を学ぶ。

ＪＩＳＰＡは現在、上記の（2）の工場を各種のテクニカル・サポートにより（1）の工場に育成することを目指しています。各種のテクニカルサポートは（1）の工場が（2）の工場に提供します。

それは**「輸入車を適切に整備できる独立系整備工場の全国ネットワークを作る」**ためです。

JISPAの新会員募集

ＪＩＳＰＡは現在、全国100社（工場）のネットワーク構築に向けて会員を募集中です。
2013年の設立以来、ＪＩＳＰＡ本部に輸入車ユーザーからの問い合わせがありますが、多くは地方在住のユーザーです。
ディーラーは大都市にしか無くて、近所の整備工場に依頼しても輸入車を受けてもらえない・・・
こうした輸入車の「整備難民」が存在しているのです。
ＪＩＳＰＡでは「輸入車の入庫を受け入れる工場は全国の各地区に必要」との考えから、全国100社のネットワークを目指しています。
なお、100社と限定しているのは、会員工場のメカニックからの問い合わせに答えるテクニカル・アドバイザーの処理能力の問題です。ＪＩＳＰＡ会員工場の輸入車整備技術がさらに向上していけば、テクニカル・アドバイザーが増員できますので、加盟工場を100社以上に増やすことが可能になります。

以下のような「思い」のある自動車整備工場経営者、
メカニックはＪＩＳＰＡへの加盟を検討下さい。

- ✔ 現在は輸入車整備の実績はゼロに近いが、今後は輸入車整備を開始したい。
- ✔ 輸入車整備を依頼される事が多いが断っていた。
- ✔ 輸入車整備は今まで外注していたが、自社で内製化したい。
- ✔ 輸入車整備を内製化しており、今後さらにこの分野を強化・発展させたい。

JISPAの会員資格

ＪＩＳＰＡの会員は正会員と賛助会員があります。

区分	条　件
正会員	国土交通省の自動車整備事業の認証工場であること
	経営者及びメカニックの代表（工場長等）の双方が本会の趣旨に賛同すること
	本会の実施する教育プログラムにメカニックを参加させることが可能であること
	※なお、入会後には輸入車対応のスキャンツールの保有が必要です
賛助会員	輸入車整備は行わないが、本会の趣旨及び事業に賛同する者、並びにその団体

	入会金	会費（年額）
正会員	6万円	12万円
賛助会員	6万円	12万円

入会金は入会時に一括
会費は上期（6月）・下期（12月）で分納します。
途中入会の場合は、入会した月の翌月より会費が発生します。
例えば4月16日に入会の場合は、5月1日より会費が発生します。

入会までの流れ

会員たる資格を有する者は所定の入会申込書を本会に提出し、理事会の承諾を得て加入することができます。

※入会申込書は事務局にあります。

入会申込書をJISPAへ提出 ▶ 理事会での承諾 ▶ JISPAへ加入

入会条件

1 資格・条件

- 自動車整備業を本業とし、かつ本会の趣旨に賛同する企業であること。
- 認証以上の工場資格を有すること。

2 経営者及びメカニックの代表（工場長等）の姿勢・考え方

- 経営者の人柄・社風を重視。
  常に、より高度な技術の習得を目指し努力する誠実で謙虚な社風を持つ工場であること。
- 協会の実施する教育プログラムにメカニックを参加させることが可能な工場であること。
- 協会の指定する機密事項について守秘義務が守れること。

3 設備

- 一定のレベル以上のスキャンツールを保有し、活用している事業者であること。
  （入会時に保有していなくても、購入する予定であれば入会できる）
  なお、保有すべきスキャンツールのレベルは協会のテクニカル・アドバイザー会議で定める。

4 地域

- 全国100工場のネットワーク作りのための立地調整。

正会員に提供されるプログラム

1

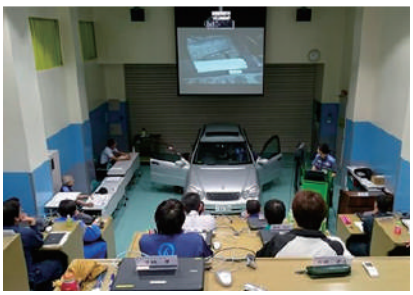
ＪＩＳＰＡテクニカル・アドバイザーの活用（無料）会員の85%が利用

輸入車入庫が多い会員工場のベテラン工場長、メカニック長に電話で相談できる。
必要な技術情報も提供。「JISPAテクニカル・アドバイザー月報」を定期発行

2

ＪＩＳＰＡ技術セミナー「輸入車整備の実務」入門編・中級編（現在上級編を開発中）

三井住友海上火災保険（株）千葉研修所で開催
1泊2日　受講料：20,000円（宿泊料・食事代含む）
ＪＩＳＰＡの技術研修は、会員工場の工場長やメカニックが、会員工場のメカニックを教えるスタイルで実践的な教育を行います。研修を契機にテクニカル・アドバイザーと会員工場のメカニックの関係が強化され整備情報の共有化を図ることができます。



3

工場研修

輸入車整備のノウハウを現場で実践的に学ぶため、輸入車入庫の多い工場に、会員工場のメカニックを受入れ研修している
（宿泊代、食事代は自社負担）。

4

ＪＩＳＰＡ輸入車部品サプライシステム

輸入車の整備入庫：年間5000台の協和自動車（東京）の協力で運営する輸入車部品サプライシステム（全国配送）。輸入車部品＆整備のことなら何でも相談できる。
協和自動車はJISPAの正会員、賛助会員、テクニカル・アドバイザー在籍工場である。

5 ＪＩＳＰＡリサイクル部品・ダイレクトオーダーシステム

独立系整備工場には旧式の輸入車が多く入庫する。
良質のリサイクル部品の探索は重要である。
通常の場合、リサイクル部品業者に依頼するか、ネットで検索する方法が採られている。
このシステムはJISPAの会員工場が、自社のパソコン端末より必要とする部品をリサイクル業者にダイレクトにオーダーできるシステムである。
JISPAの協力企業である株式会社MoviUSAの協力により実現した。
現在、会員の65%がこのシステムを導入している（登録料・使用料は無料）。
「MoviUSA：JISPAリサイクル部品販売月報」を定期発行

---

6 輸入車対応スキャンツールの一時貸出しサービス（送料のみ負担）

テクニカル・アドバイザーへの相談の結果、必要とあれば輸入車対応スキャンツール（AUTEL）を本部より宅配便で送付。使用後に返送する。

---

7 輸入車対応スキャンツールの販売（AUTEL、LAUNCH）

賛助会員：協和自動車、ロシェル

---

8 輸入車対応スキャンツール（LAUNCH）のリース（月額4,000円～）

スキャンツール本体及び年次更新料をセットとしてリース契約（賛助会員：ロシェル）

---

9 ＪＩＳＰＡ工場運営アドバイザー制度（無料）

全国の会員工場を巡回して輸入車入庫促進、顧客対応の方法をアドバイス。

---

10 ＪＩＳＰＡ　ＮＥＷＳ（無料）

会員工場と顧客の輸入車ユーザーを結ぶ広報誌

この他、現在、システム構築を進めているものが多々あります。

無料とあるのは会員工場（正会員）であれば、特別に追加料金は不要。

会員の年会費で運営しているシステムです。

JISPAの将来展望

全国100ネットワーク完成と合わせて以下のことを考えています。
輸入車ユーザーへの告知強化（ラジオ・テレビ・輸入車専門雑誌等での宣伝活動）を行います（関東地区ではＪＩＳＰＡとしてドライバー向けラジオ番組出演の実績があります）。
会員会社のホームページを活用した集客を推進し、本部のホームページと連携して顧客を呼び込み、囲い込む仕組みを作ります。

しかし・・・輸入車の整備はお任せ下さいと告知して、輸入車ユーザーがJISPA工場に整備を依頼したら・・・「実はその輸入車は直せません」では済みません。

JISPAが会員の技術研修に力を入れているのは、こうした将来に備えてのことです。

全国ネットワーク完成の暁には、ＪＩＳＰＡとの提携を考えている事業者は多々あり、ネットワークで「仕事を取る」ことを目指します。協会のロゴマーク(商標登録済み）を使用したステッカーを制作し会員工場に掲示します。

JISPA概要

名　称	一般社団法人　日本輸入車整備推進協会
英文名	Japan Imported Car Service Promotion Association（JISPA）
所在地	〒142-0064　東京都品川区旗の台2-10-15
連絡先	TEL：03-6421-6081　FAX：03-6421-6084
ＵＲＬ	https://jispa.net/
設立年月日	２０１３年４月１日
会員数	ＪＩＳＰＡ公式ホームページ参照